

幼児の遊びと指導について

—— じゃんけん遊び 1 ——

島山 倫子 〇佐々木尚美 東 和子
(安田女子短期大学) (広島市教育センター) (広島市立上緑井幼稚園)

はじめに

幼児を取り巻く社会環境、自然環境、生活環境は、目まぐるしく変化がみられる昨今である。それに伴い幼児の遊びにも変容がみられる。空地・広場・公園などで、身体を動かして、集団で遊んでいる姿も見かけることがほとんどない。

幼児の生活は、遊びが中心であると重視されながらも、真の意味での遊びがなされていない。園生活における遊びとその指導について見直す必要があると考える。そこで、幼児の遊びにも欠くことのできないじゃんけん遊びに視点をあてて考えたい。

じゃんけんは、いつでもどこでも簡単にできる手遊びから、多くの友だちとかかわりがもてる集団遊びへと、その遊びの内容は多様多様でもある。幼児期の発達期の著しい時期にじゃんけん遊びを取り上げることはその教育的意義がかなり大きいと考える。しかし、幼児にとっては、あくまでも楽しく実態に即した遊びである必要がある。

1. 研究目的

じゃんけん遊びについて考える時、幼児の実態や発達に即していない実践を目にし、耳にすることが多い。

そこで、今回はじゃんけんの勝ち負け・あいこ理解についての実態を把握し、幼児により楽しい遊びを体験させるための遊びや指導の見直しを図りたい。そして、今後の指導の手だてとする。

2. 研究内容および方法

(1) 研究内容

① じゃんけんについての基礎理解調査の実施

(2者間じゃんけんの勝ち負け理解)

- ・教師の提示する(パーアサート)に対する反応
- ・じゃんけんパターン提示に対する反応

② 連続じゃんけんによる出現確率

(2) 調査方法

面接法による調査を行なう。

(3) じゃんけんの表し方

グーはG、パーはP、チョキはCとする。

(4) 調査対象

3歳児 男17名、女7名 計24名

4歳児 男36名、女37名 計73名

5歳児 男36名、女44名 計80名 合計187名

3. 結果および考察

じゃんけんの基礎理解について

・教師の提示に対する反応——教師の「勝てね」の指示に対しての反応結果は、表1に示す通りである。3歳<4歳<5歳と加齢と共に、数値が高くなっていく。3歳の約70%に対して5歳では、約90%と高くなっている。「負けてね」の指示に対しての反応結果は表2に示す通りである。3歳<4歳<5歳と加齢と共に高い傾向を示している。3歳の約50%に対して、5歳でははっきり理解している反応である。「負けてね」の調査が2回目にあたることから、4・5歳では結果が良くなっている。それに対して3歳は逆の結果であることは、じゃんけんへの理解が充分でないことがわかる。3～5歳は、じゃんけん理解ができてくる大切な時期であることが、今調査結果からも裏づけられることができた。

・じゃんけんパターン提示に対する反応——じゃんけんパターン提示に対する4・5歳の反応結果は、表3に示す通りである。勝ち負けの完全理解者は、4歳97.68%<5歳85.0%である。4歳児の場合は調査方法を変えると結果が悪くなるのは、まだはっきり理解がなされていないことがわかる。4歳児に比べて5歳は数値からも安定し、理解している幼児が多いことがわかる。

・連続じゃんけんによる出現確率について

連続12回じゃんけんによるG・C・Pの出現確率の結果は、表4に示す通りである。3歳はC43.4%>G28.5%>P28.1%である。4歳はP35.5%>G32.7%>C31.4%である。5歳はC38.2%>P33.9%>G27.9%である。3歳のCの出現確率が少し高い他は、G・C・Pの出現確率の差は見られない。Cの出現確率が低いことを予想していたが、結果は逆であった。年齢・ピースポーズなどでCを出すことには、慣れていくようである。幼児の中には、GP・CP・GCの2種のみの出現しかみられない幼児は、3歳25.0%>4歳19.2%>5歳15.0%である。連続じゃんけんの手を出す反応は、年齢が低い程遅い。反射能力とじゃんけん勝ち負け関係理解は、共に育っていくことが伺える。

幼児の遊びと指導について

—— じゃんけん遊び 2 ——

島山 倫子 佐々木 尚美 ○東 和子
(安田女子短期大学) (広島市教育センター) (広島市立上緑井幼稚園)

1. 研究目的

じゃんけん遊びで述べた基礎理解の把握に基づき、じゃんけんの特性を生かした遊びの研究をするとともに、発達段階に応じた保育実践を試み指導について考えることを目的とする。

2. 研究方法

4・5歳児を対象に、じゃんけん遊びの保育実践を行ない、観察法による記録をもとに考察する。

3. 研究内容

(1) 遊びや生活におけるじゃんけん場面

幼児の様子をみると、いろいろな場でじゃんけんが使われている。そこで、いろいろな場面でのじゃんけんを分類する。(表1に示す通りである。)

表1 遊びや生活の場面におけるじゃんけんの分類

じゃんけん場面	方法	主な事例
遊び	じゃんけんおぼえる	じゃんけん歌で、出せ世世じゃんけん、じゃんけんソング など
	二人組で遊ぶ	おはさ、おちゅうか、じゃんけんおひらきさん 変身じゃんけん、じゃんけん馬たしき など
	集団で遊ぶ	うすまきじゃんけん、線と鬼、じゃんけん汽車 じゃんけんすごろく、期戦ドドン、変身じゃんけん など
	オニ決め	遊びの中で、鬼を決める時 など
	役決め	ままごとの役を決める時 など
	順番決め	線と鬼の遊びをする順番を決める時 など
生活	組み分け	ドッジボール・サッカーなどチームにわかれる遊びの時 など
	トラブル解消	いすとりなどの遊びの中でトラブルを収め、機嫌直しを決める時 など
	順番決め	グループで遊ぶ時の順番 など
	組み分け	グループを決める など
	物の分配	折り紙を分ける、果物の分配 など
生活	役決め	当番を決める など
	生活の中で見られる場面	

(2) 具体的な指導事例

幼児に理解しやすく、幼児だけでじゃんけん遊びが展開でき、しかも多人数で遊べる遊びに視点をあてて考え、意図的に環境設定し指導を試みた事例である。

① 事例1 はしごじゃんけん遊び

白線ではしごをかく。(遊びへのきっかけ)

興味をもって集まり、遊びへ (興味・関心) の反応を示す。

「先生、これ何?」「①「何かな?」
「はしごみたい」「えんとつみたい」
「えっ、すごろくでしょ」

遊び方を知らせる。(指導)

- ・友達とじゃんけんをする。
- ・勝ったら1マス進む。負けたらその場に立ち止まる。
- ・はやく通り抜けた人が勝ち。

友達を探して遊びはじめる。(展開)

「おーい しょうや」「一緒にしよう」

遊び方を、いろいろ変えて遊ぶ。(工夫・発展)

すぐにルールを理解し書いて遊びはじめる。経験のある遊びと結びつけ、じゃんけんの仕方を工夫したり遊びに変化をもたせルールを考えるなどの姿もみられた。

以上、はしごじゃんけんは、簡単なルールのある遊びである。4歳児も参加し、友達とのかかわりも生まれ、多くの友達と楽しむことができる遊びである。勝つと1マス進む、負けると立ち止まるなど、じゃんけんの勝ち負けがはっきりしているため手・足・身体じゃんけんなどへの工夫が見られ、次第に意欲的に遊ぶようになった。「じゃんけん」のかけ声も大きく楽しんでいる姿が見られた。

② 事例2 迷路じゃんけん

じゃんけんの回数をふやし、じゃんけんを楽しむことに視点をあて、日頃園でよく遊んでいる一本橋じゃんけんから遊びを発展させていった事例である。

1本の道で出あったらじゃんけんをする。

勝ったら進む。
負けたら道からおりる。

道をふやしていく。

勝ったら進む。
負けたらもどる。

自分たちでルールを考えていく。

負けたら「ポチャン」と言い道からおりる。10数えたら、また道を歩きはじめる。

じゃんけんを理解して遊ぶことで行動も素早くなり、友達と繰り返して遊ぶことで満足のできるものとなった。また1つの遊びを広げたことで、次第に参加人数も増え、友達とのかかわりもふえていった。大きな声